

くま川鉄道

自前で3運転士養成

来月デビュー 経費を大幅圧縮

人吉市と湯前町を結ぶ第三セクター「くま川鉄道」の社員3人が、国の運転士試験に合格した。経費を抑えて運転士不足も解消しようと同鉄道が初めて独自に養成した。

同鉄道によると、運転士の資格取得は通常、JRなどにある養成施設を利用して試験に臨むが、委託料などで1人当たり数百万円の経費がかかる。同鉄道は厳しい経営状況が続く中、運転士不足を補おうと試みた。

3人は同市在住で、運輸課の前田充徳さん(30)、施設課の堀川勉さん(29)、総務課の生駒圭史さん(28)。今年3月から、運転士の資格を持つ前田重行運輸部長(60)の指導の下で受験勉強。

9月の筆記試験後は、協力した他の運転士からも運転操作などを学び、12月の実務試験に3人そろって合格。念願の国土交通省が交付する運転免許証を手にした。

「くま川鉄道の運転士はJR九州OBがほとんどで、いつか自



くま川鉄道の独自養成で運転士資格を取得した生駒圭史さん、前田充徳さん、堀川勉さん(写真左から) 一人吉市

前の運転士を持ちたいと思っていた」と前田運輸部長。資格取得までの費用は1人当たり約5万円で済んだ。

前田充徳さんは来年1月、同鉄道の運転士としてデビュー。ほかの2人も欠員補充などで運転するという。前田さんは「くま川鉄道は人吉球磨の中心を走る背骨。安全第一で頑張りたい」と話している。(臼杵大介)